

座長 今西健一 (微生物学免疫学)

12. HIV/AIDS 患者におけるケモカインレセプターの発現

(¹)中央検査部輸血科, (²)同 臨床検査科免疫血清検査室)

長田広司^{1,2)}・高橋純生¹⁾・森本牧子²⁾・清水 勝^{1,2)}

13. 強皮症発症要因としてのマイクロキメリズムの検討

(膠原病リウマチ痛風センター) 市川奈緒美・小竹 茂・箱田雅之・鎌谷直之

14. TCR V β エLEMENTは T 細胞のスーパー抗原応答性だけでなく活性化後の増幅の大小をも決定する

(微生物学免疫学) 陳 露秋・八木淳二・今西健一・

小柳 円・加藤秀人・内山竹彦

1. 免疫グロブリン大量療法を施行した CIDP 患者末梢血リンパ球サブセットの変化について

(神経内科) 清水優子・太田宏平・岩田 誠

[目的および対象] 免疫グロブリン大量療法 (IVIG) の慢性炎症性脱髄性ニューロパチー (CIDP) への免疫効果についてはいまだ不明な点が多い。今回我々は CIDP 患者 7 例の IVIG (0.4g/kg \times 5 日間) 投与前後で末梢血単核球を分離し、同時に IL-2 100U/ml を含む培養液で短期培養を行い、リンパ球サブセット (CD4, CD8, CD56, TCR δ -1) の変化を検討した。

[結果] ① CD56⁺細胞は投与前後で平均 20 から 17 %へ低下、IL-2 反応性 CD56⁺細胞は 50.6 から 40.5%へ低下した。② IL-2 反応性 CD56⁺ γ σ T 細胞は投与前後で 30 から 13.2%へ低下した。③ CD4⁺, CD8⁺細胞は一定の傾向はなかったが、IVIG が著効した 1 例で IVIG 後 IL-2 反応性 CD4⁺細胞は低下した。

[考察] IVIG 後 natural killer 細胞 (NK 細胞) である CD56⁺細胞, NKT 細胞と考えられている CD56⁺ γ σ T 細胞の低下を来したことから細胞障害性機能の抑制が示唆され、IVIG の CIDP における免疫系に及ぼす機能の一つとして考えられた。

2. 慢性関節リウマチ滑膜におけるアドレノメデュリンの発現

(¹)膠原病リウマチ痛風センター, (²)国立療養所村山病院) 南家由紀^{1,2)}・小竹 茂¹⁾・米本光一¹⁾・斉藤聖二¹⁾・鎌谷直之¹⁾

[目的] アドレノメデュリン (ADM) は、ヒト褐色細胞腫から発見された血管拡張作用や強い降圧作用を持つ生理活性ペプチドである。最近、循環ホルモンとしてだけでなく、血管壁でパラクリン、オートクリンとして機能することが明らかになった。さらに、マクロファージからの IL-8 産生を抑制し抗炎症作用を示すことが報告された。そこで今回 RA の病態における

ADM の関与について免疫組織学的に検討した。

[対象および方法] RA および OA 患者から得られた滑膜組織を抗 ADM 抗体ならびに抗エンドセリン (ET) 抗体を用いて免疫組織染色した。

[結果] RA 滑膜において増殖した血管内皮に ADM が陽性であった。また ET も fibblast 様細胞部に陽性を示した。OA 滑膜においては ADM, ET とも認められなかった。

[結語] RA の病態において ADM の関与が示唆された。

3. 分娩時に発症した劇症型 A 群レンサ球菌感染症臨床分離 A 群レンサ球菌株と猩紅熱由来臨床分離株の性質の比較検討

(¹)微生物学免疫学, (²)都衛研・微生物)

三好 (秋山) 徹¹⁾・趙 吉子¹⁾・遠藤美代子²⁾・内山竹彦¹⁾

[目的] 劇症型 A 群レンサ球菌感染症 (STSS) は高い致死性と激しい症状により注目されている。また近年、分娩時に起きた STSS の例が報告されている。我々は STSS 由来菌株 (ST 株) と猩紅熱由来菌株 (SF 株) の比較の結果、前者は後者に比べ、マウスに対する高い致死性、高い SLO 産生能、低いスーパー抗原産生能、低い培養細胞附着性、高い生体への侵入性等の性質を有していることを報告している。そこでこれらの性質を分娩時 STSS 由来菌株 (SD 株) で検討した。

[結果・考察] SD 株は SF 株に比べて、マウスに対する高い致死作用、低いスーパー抗原産生能、低い培養細胞附着性、高い組織侵入性を有しており、これらの性質は ST 株と同様であった。従って、SD 株と ST 株は基本的に同様の性質を有しているものと考えられた。

4. 抗ヒト T 細胞抗原レセプター ($\alpha\beta$ TCR) 抗体により誘導される 3 次自己抗体によるドナー抗原特異的